

# 西 区を豊かに

2019年  
12月15日発行  
第31号

発行所 新潟市西区自治協議会 会長 下川 照雄

事務局 〒950-2097新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内  
TEL: 025-264-7161 FAX: 025-269-1650  
メール: chiiki.w@city.niigata.lg.jp



西区の宝物をたくさん詰め込んだロゴマークです。新潟すいか、赤塚大根、くろさき茶豆、佐潟の白鳥。その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽を乗せました。

## 支え合いの輪を広げるために

地域課題を解決するためには、地域での支え合い(互助)の精神が大切です。平成30年豪雪を受け、西区自治協議会では改めて互助のカタチを考えようと、昨年度から互助の実例を共有し、課題を洗い出してきました。ことしはその「輪」を広げるため、自治協で取り組みそうなことはいないか検討を進め、アイデアの実現に向けて取り組んでいきます。

今号では、検討会で出された意見のほか、地域や行政で行われているさまざまな支え合いのカタチを紹介します。



### 〈自治協議会で取り組みそうなこと〉

- 住民同士であいさつや声掛けがスムーズに行えるような標語を考える。または、標語を募集し、看板にして設置する。
- 雪かきの動作を取り入れた体操(トレーニング)を通じて、楽しく取り組むことを広める。
- 人の手で除雪が必要な箇所を地域で把握し、マップにして情報共有する。

### 〈地域で取り組みそうなこと〉

- 子ども会、老人会、地域の茶の間などを通して、日常的に多世代交流できるような横のつながりを持つ。
- 自治会の会議(班会議等)で話し合い、いざという時の対策を取り決める。

### 〈降雪時のアイデアも出されましたので紹介します〉

- 車には、雪落とし用のスコップとスリッパ対策の麻袋を積んでおきましょう!
- 自分の家の前だけでなくごみステーションや歩道などの共有スペースも除雪してみましょう!



## 自治協委員が見た! いろいろな支え合いのカタチ

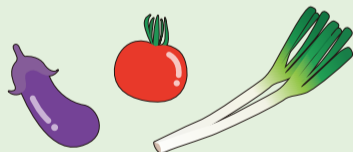
### 顔が見える賑やかな場所にしたい ~みずき野 野菜朝市~

9月に試験的に開催された第1回みずき野野菜朝市。「久しぶりだね～」の声や若い親子連れが訪れるなど、住民の交流の場を見ることができました。

「みずき野は700世帯ほどの地域だが、世帯年代がバラバラで住民のつながりが少ないことが課題」と主催者『支え合いプロジェクトみずき野』の岩淵さんは話しています。「交流の場を増やし、いざという時に助け合える関係を築きたい」と『支え合いのしくみづくり推進員』の和久井さんや有志メンバーを中心に活動をスタート。「スーパーがない」「野菜農産物の朝市があったらいい」などの声から、朝市の開催に至りました。

岩淵さん自身も80歳になり「次世代やその次の世代の人たちにも楽しみながら活動を続けて欲しい」と話していました。

(取材 渡辺美弥子)



### LINEで子育て情報をお届け ~西区健康福祉課~

『にしこはぐくみLINK』、略して『にしはぐ』は、妊娠週数や子どもの月齢に合わせて、専門家監修のアドバイスや西区からの子育て応援情報を無料通信アプリ「LINE」でお届けするサービスです。妊娠中・子育て中の方やその家族と西区がつながり、「子育てしやすい西区」になるように、ことし7月7日に開始されました。

対象は妊娠期から子どもが3歳になるまでで、特に妊娠中や3カ月までの赤ちゃんの子育て中の方には毎日さまざまな情報が届きます。赤ちゃんだけでなく母親の健康まで細かく丁寧に発信されていて、子育てで不安がいっぱいな時期に届く情報は大変心強いものだと思います。

初めての子育ては「孤育て」になりがちで、いろいろな問題に発展し易い状況が生まれます。『にしはぐ』は親子の居場所や相談窓口など、不安や悩みに対応できるきっかけを作ってくれるものだと思います。

『にしはぐ』は子育て中の家族みんなが登録出来ます。パートナーやおばあちゃん・おじいちゃん、西区に在住でなくても登録可能です。周りに思い当たる方はいませんか、ぜひお勧めください。(取材 五十嵐加代子)



たまごのアイコンが目印



お問い合わせや登録はこちらです。>>>

### 新中浜おたすけ隊 ~新中浜町内会~



新中浜おたすけ隊は、5つの合言葉のもと活動を始め、ことしで9年目を迎えました。春の野点会や夏のお祭り、町内・空き家・空き地の清掃など、年間を通して活動しています。

このほかにも、避難行動要支援者のメンバーで組織化、クリーンにいがた推進員にもなっています。今後も、活動する人の増加、コミ協や他自治会との連携などを目標に活動していきます。(取材 寺瀬千恵)

#### 5つの合言葉

- 自分のできることにのみに参加する。
- 無理をしない。
- 仲良く、楽しく、仲間作りをする。
- 作業時間は午前中だけとする。
- 得意分野に専念する。

### 男性の交流の場「親睦会」 ~寺尾駅前第二団地自治会~

寺尾駅前第二団地自治会は、大堀幹線沿いの戸数約150戸の自治会で、在住者の半数以上が65歳以上と高齢化が少し進んでいます。今回は、今期で4年目を迎える大和会長から男性の交流の場として始まった「親睦会」についてお話を伺いました。



昭和50年代は小学生が40~50人程いて、町内全体が活気に満ちていたそうです。今では当時の現役世代が高齢になり、特に男性は地域で交流の機会が少なくなりました。そこで、男性が気軽に集まることが出来る情報交換の場として男の飲み会「親睦会」を始めたそうです。

月1回第3土曜日の夕方から自治会館を会場に千円から2千円の会費で開催されます。出欠の確認などを資源回収の日に行うことで地域活動の参加も増えました。「親睦会」も始めてから3年、毎回15人前後の参加者があり、お酒の飲めない人もノンアルコールで話の輪に加わり、今では意見交換の場としてすっかり定着したようです。(取材 長澤良徳)

# 一緒に考えよう! 西区の教育 ~第1回西区教育ミーティングを開催しました~

## 教育委員会の取り組み

新潟市教育委員と自治協委員が西区の学校教育の在り方や今後の方向性について意見交換を行う第1回教育ミーティングが7月31日に西区役所内で開催されました。

はじめに、教育委員会から学校教育でのさまざまな取り組みについて説明がありました。

学校では、国際化・情報化社会を見据え、外国語教育の充実やデジタル機材を活用したICT教育の推進などを図っています。また、いじめ・不登校については、学校が組織的に対応することで適切な支援を行うとともに、早期発見や未然防止にも力を入れています。

さらに、保護者、地域、学校で「目指す子どもの姿」を共有し、それぞれの立場で子どもたちの健やかな成長や自己肯定感を高める働きかけの重要性、地域と学校パートナーシップ事業などの紹介がありました。

そのほか令和4年度から全市で実施予定の、保護者・地域・学校の三者連携の場であるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)や学校での働き方改革(時間外電話の対応見直しや部活動指導員の配置など)についても取り組んでいるとのことでした。



## 自治協議会からの意見・提案

○不登校の子どもが教室に戻れるよう校内の居場所づくりに配慮を。

○学校に地域開放の場を作ることで、住民と子どもが交流できると良い。ボランティアとしてではない大人が身近にいて、子どもたちの目に触れることも大切では。

○地域が学校に入っていくだけでなく、子どもたちが地域に出ていく関係がなければ、本当の意味での学・社・民の融合とはいえない。子どもたちが地域の行事や活動に参加するよう働きかけていく必要がある。

○学校の会議での資料が多く、保護者も地域も内容を消化しきれない。先生の働き方改革を進めるうえでも、資料を少し整理しては。



このミーティングは公開会議で、誰でも傍聴することができます。次回は令和2年1月28日、「保護者・地域・学校の連携のあり方 保護者の関わり方をより深めた三者連携の仕組み」をテーマに開催する予定です。また、教育委員会の取り組みの詳細は市HPで確認できます。



## 知っとなつて 街のタネ



### 御幣稲荷(青山稲荷)神社の今昔物語

昭和63年、地域住民の要望が叶いJR越後線青山駅が誕生しました。その青山駅から小針方面へ徒歩で約5分位のところに有名な五平狐(ごへいぎつね)を祀る青山稲荷神社があります。

災害発生からことして55年になる新潟地震。この地震よりかなり以前は、青山稲荷神社の拝殿は海拔30メートルくらいの高台に鎮座していました。旧国道116号から進み、約150段ある石段を登ると拝殿があり、そこからは近隣町内の田園風景が一望でき、中学校・高校の運動部がしばしば階段を駆け上がり汗を流したものです。

五平狐を祀った青山稲荷神社の歴史は相当に古いようですが、詳細は不明です。青山稲荷神社は地域のまとめ役として、青山1丁目地内の昔ながらの住民たちから「親様」と呼ばれ親しまれていました。

また、青山稲荷神社の熱心な信奉者は、神社の道路向かいにあった商店で「豆天」「油揚げ」「ろうそく」を買い、せつせと神社の拝殿へ奉納したものです。青山稲荷神社のすぐ近くに住んでいることから、時折御裾分けをいただきました。

さて、稲荷神社と言えば誰もが思い浮かべるのは「赤い鳥居」です。拝殿が高台にあったころ、その鳥居の眺めは壮観の一言に尽きました。現在の拝殿は平地にあるため以前より数が少なくなっています。

神社の祭事は毎月1日に開催されており、ときどき心地よい太鼓の音が聞こえてきます。年末から新年にかけての二年参り、2月の豆まき、5月8日の春季大祭では多くの人で賑わっています。



拝殿が高台にあったころの青山稲荷神社/新潟市所蔵

## 2019収穫祭 亀貝米舞フェス ~地域の支え合いと地域への愛~

地域を愛する人々の想いが詰まったお祭り「米舞フェス」、たくさんの助け合いの積み重ねでできあがった手作りのお祭りには、そこに暮らす住民と活動する企業の支え合いがありました。

台風が迫る9月21日(土)、22日(日)、亀貝のラベストゆうパークで、「米舞フェス」が行われました。公園がJA新潟みらいの直売所「いっぺこ〜と」に隣接していることもあり、多くの家族連れで賑わっていました。ステージイベントあり、フリーマーケットあり、屋台村、大抽選会、ターゲットバードゴルフ体験会など楽しさ満載。ステージから流れてくる音楽に誘われてきたという人もいました。

ことして3年目、始まりは自治会長と飲食店店長の出会いから。自治会ができて数年、住民のつながりを求めていたラベスト亀貝自治会長の頓所さんと、地域のために何か貢献できるものはないかと考えていた沖縄料理店「いちゃりば」の店長諸橋さんが想いをつづらしたところからでした。

地域の人々が集まる楽しいお祭りをしようということになり、お互いの人脈をたどりできることから始めようと思っていたところ、いっぺこ〜との店長さんをはじめ多くの人々が共感してくださったとのこと。まさに人のつながりでできたお祭り、「ここに住んでよかった!と思える街にしたい」という二人の熱意が伝わってきました。

数々の苦難を乗り越えて開催された「米舞フェス」。来年はどんな風を吹かせてくれるでしょうか。



## 編集後記

今年度から西区自治協議会委員として、広報紙の発行を担当することになりました新潟大学3年の田場川です。記事を書くのは初めての経験で、他のメンバーや区役所職員の方々にサポートしていただきながら頑張っております。今後も皆様に自治協の事業や取り組み、西区の魅力などを分かりやすくお伝えできるように励んでいきます。引き続き、ご愛読いただけると嬉しいです。

(田場川祥代)

## 募集しています

- 広報紙や自治協議会活動についてのご意見を募集しています。住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、広報紙表面の「事務局」あてに郵送または電子メールにて送付ください。
- とっておきの私の一枚 ◆あなたの「自慢の写真」(家族・風景・イベント・ペット等)に住所・氏名(氏名必須、ペンネームがあればペンネーム掲載)・連絡先・写真タイトル・一言コメントを添えてご応募ください。(電子メール可) ◆採用者には千円の図書カードを贈呈。◆応募写真は返却しません。◆締め切り1月15日(3月号掲載予定)。◆送付先/ 広報紙表面の「事務局」あて

## とっておきの私の一枚

タイトル 我家のアイドル

投稿者 樋口亜紀子 さん

一言コメント いつも可愛い笑顔をありがとう



パソコン  
スマートフォンでも  
ご覧になれます!  
Web版  
「西区を豊かに」